

日本共産党区議会議員
Japanese Communist Party

安藤たい作

区政報告 ニュース 第21号

第一回定例議会が開会、各党代表質問はじまる 区長の施政方針演説に、区民の痛みに目を向け心寄せる姿勢なし！



先週号で言い忘れましたが、17日をもって33歳となりました。生きてこの目で22世紀を拝みたい私といたしましては、安心して長く暮らせることのできる品川をつくることは必要不可欠の課題です。子どもの医療費無料化を今度はお年寄りに！全力で頑張ります。

第一回定例議会が始まりました。南恵子団長が21日に共産党区議団を代表して質問。施政方針演説を行った区長はじめ、区の姿勢をただしました。

なぜ格差の広がりを認めないのか

南区議は「区長の施政方針には負担増に悲鳴をあげる区民の痛みに心を寄せる表現はどこにもない」と指摘。その上で「国の悪政のもと、区民生活にも貧困と格差の広がりは明確にあらわれているが、そういう認識があるのか」と質問しました。しかし区長に代わり答弁に立った企画部長は「いわゆる『格差』への対応は国会で議論されており、国でやるべき事」と繰り返し返し、最後まで格差の広がりへの認識を示しませんでした。

区民の前では口をつぐむ区長

さらに改悪策動が強まっている憲法問題についても「区長の九条に対する見解・評価をお聞かせ下さい」と質問しましたが、区長は「いま国会で議論されている。見解は差し控える」と、前高橋区長の態度を忠実に「継承」してみました。区長は昨年末の教育基本法「改正」論議の際、国会で参考人として呼ばれていました。その時には「国会で議論しているので見解は差し控える」はずの教基法についての持論を、堂々と述べていたのです。なぜ区民の前では口をつぐむのか、まったく議会軽視・区民無視といわざるをえません

まずは正しい認識持つてこそ

自治体の長として何よりも区長は憲法を精神を生かし、格差と貧困の広がりを正す仕事の先頭に立つべきです。「貧困と格差」の存在すら認めず、憲法守るの一言も言えない区の施策に期待しろ、というのも難しい話ではないでしょうか。



漫画：安藤たい作

先週号で「区はH20年には在原西地区にも平塚中と平塚小を統合し小中一貫校の開校を目指す」と記述いたしましたが、「H22年」の間違いでした。お詫びして訂正いたします

安藤たい作プロフィール '74年 宮城県仙台市生まれ33歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

安藤たい作ニュース は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。